

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	福井市立日新小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域とつなぐ、未来へつなげる、日新教育プログラム

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、活動に至る経緯

日新小学校の校是は、「世の中の古くて立派なものを手本にして、新しいものをもとめていくことで、日新小学校の子どもがますます成長発展してやまない姿を求めていくこと」である。学校評価（令和4年12月実施）によると、「郷土福井を大切にしたいという気持ちを持っている」そう思う 58%、まあそう思う 35%、あまりそう思わない 4%、思わない 3%、「地域の行事やボランティア活動に参加している」そう思う 27%、まあそう思う 27%、あまりそう思わない 30%、思わない 19%となっている。子どものふるさとへの愛着心は高いが、コロナ禍による地域との連携・協働した教育活動の中止や縮小に伴い、地域への貢献活動が薄らいでいることがうかがえる。一方、一人一台タブレット端末を活用することに関し、「タブレットが学習に役立つ」そう思う 84%、まあそう思う 15%、あまりそう思わない 1%となっており、タブレットの学習への有効性を実感している子どもがほとんどである。よって、地域との連携・協働した教育活動（世の中の古くて立派なもの）と学びのツールとしての ICT 活用（新しいもの）を融合させ、アフターコロナ時代に適した地域と連携・協働した地域再発見と再発信による日新教育プログラムを再構築し、子ども達の未来につなげる実践を行うこととした。

2、活動・研究の目的（ねらい）

- （1）アフターコロナ時代を目指して、地域との連携・協働の教育活動を見直し、再構築した日新教育プログラムを開発する。
- （2）開発した教育プログラムを実践し、日新地区とふるさと福井の良さの再発見と再発信をし、地域への愛着心とともに地域に貢献する意識や態度を高める。

3、活動内容

（1）実践事例1 1・2年生活科「しぜんとあそぼう」

日新小学校の周辺は、田園地帯だった場所が住宅街と発展した都市型自然環境を有している地域である。校園地や近隣の西藤公園など、地域の自然とふれ合い、遊び、自然の恵みに気づくようにした。発表会を通して、地域の良さに気づいたことを保護者や地域に伝えていった。

（2）実践事例2 3年総合的な学習と社会科「日新見て歩き」



公民館の自主グループ「いきいきライフセミナー」の方を招聘し、日新地区の歴史や施設、文化について講話をしていただいた。子どもは「いきいきライフセミナーの方」とともにタブレットを活用しながら日新地区を見て歩き、日新地区の魅力を再発見した。子どもが学んだことをプレゼンにまとめ、保護者や地域の方に発表し、地域への発信を行った。



(3) 実践事例3 4年総合的な学習「福祉ワークショップ 日新地区の未来を考えよう」

少子高齢化は日本全体の待ったなしの課題である。日新地区の少子高齢化も日本全体と同じ傾向を示している。社会福祉協議会の方を招聘し、その現状を学んだ。その上で、日新地区の課題と改善点を子どもの視点で考察し提言としてまとめた。



(4) 実践事例4 5年総合的な学習「底喰川クリーン大作戦」

日新地区を流れる底喰川は、40年前までは生活用水が流れる汚れた川だった。日新地区の住民が底喰川をきれいにする運動を行政に働きかけたり、ゴミ拾いをするクリーン大作戦を展開したり、花植えをしたりすることで、きれいな川に戻っている。日新公民館環境部会の方を招聘し、底喰川の歴史と住民運動の取組を学ぶことで、地域を流れる底喰川にどのように関わっていくかを考えた。「底喰川クリーン大作戦」に参加し地域に貢献した。



(5) 実践事例5 6年理科「大地の変化」

福良の浜で地層の野外学習を行う。子どもはタブレットを活用し、礫層、砂層、泥層などの地層を観察し記録し、福良の浜の地層がどのように堆積したのかを、流れる水の働きと関連づけながら学んでいった。野外実習で得た記録を活用しながら、プレゼンテーションを行った。



4、子どもたちへの効果（成果・課題）

(1) 地域との連携・協働の教育活動を見直し、日新教育プログラムを再構築した。

コロナ禍では、地域との連携・協働した教育活動は中止や縮小をしていた。今回、見直しを行うことで、地域とつなぐ、未来へつなげる地域との連携・協働した教育プログラムを再構築することができた。

(2) 再構築した日新教育プログラムを実践し、日新地区とふるさと福井の良さを再発見と再発信した。

学校評価の項目「郷土福井を大切にしたいという気持ちをもっている。」に対して、よくあてはまる59%、ややあてはまる31%、ややあてはまらない10%となっている。項目「地域の行事やボランティア活動に進んで参加している」に対して、肯定的な意見が令和3年36%、令和4年56%、令和5年64%と向上している。子どもが実体験を伴いながら、日新地区とふるさと福井の良さを再発見し再発信することができた。

(3) ICT活用で個別最適な学びと協働的な学びを実現し、日新小と子どもの成長を示すことができた。

タブレット端末は、子どもの学びのツールとして日常的に使われている。ICT活用により一人一人の子どもが情報収集、整理、活用、仲間への発表、話し合いをすることで、個別最適な学びや協働的な学びを実現することができた。「タブレット学習は役に立っているか。」との項目に対して、「はい」と答える児童が100%に達している。日新小学校の校是となっている「世の中の古くて立派なものを手本にして、新しいものをもとめていくことで、日新小学校がますます成長発展していく姿を実現できた。